

1978 TALENT EDUCATION ALL JAPAN CONCERT



violin · piano · cello · flute · koto · by 3000 children

才能教育全国大会コンサート 3000人の児童による [バイオリン・ピアノ・セロ・フルート・箏] 大合奏

●MARCH 19<SUN> 1978 PM.1:30

●NIPPON BUDO-KAN TOKYO

●ADMISSION ——— RESERVED SEAT ¥1000

●とき ——— 昭和53年3月19日<日>PM.1:30

●ところ ——— 日本武道館大ホール 東京・九段

●入場料 ——— 指定席 ¥1000

昭和53年特別行事ニュース

鈴木会長夫妻結婚50年を祝う会

3月18日(土)午後6時、東京・九段のグランドパレスホテルで行われます。

●

日本100名アメリカ100名の生徒によるワシントン外での両国親善コンサートは、アトランタのデビッド・スミス氏の招待によるものですが、演奏日程は次の通りです。

4月9日——ワシントンのケネディ・センター
この演奏会には、カーター大統領御招待の準備が進められています

4月13日——アトランタのコンサート・ホール

4月16日——ニューヨークのカーネギー・ホール

●

1978年国際ロータリー東京大会のオープニング・コンサートに300名のバイオリン生徒が出演。

5月15日(月)国立代々木競技場の第1体育館で、午後4時半と7時半の2回演奏し、曲目は、キラキラ星変奏曲、ユーモレスク、ビバルディのイ短調協奏曲の第1楽章で、演奏時間は12分です。

このオープニング・コンサートは他に、PLパトーンチームのレコード、NHK交響楽団演奏の外山雄三作曲「ラフンティ」、能「土ぐも」喜多実があります

●

サンフランシスコ大学におけるススキ・メソッド夏期学校に、日本の生徒200名が出席。期間は、8月6日から11日までの6日間です。

松本における第29回夏期学校は、例年通り、7月27日から8月4日まで開かれます

●

長野県『やまびこ国体』開会式に県下500名の生徒が特別出演。

10月15日(日)、同国体のメインスタジアムは松本県営競技場ですが、天皇・皇后両陛下の御前での演奏は始めてです。3回のリハーサルを前に一同は切り切っています。

●大会委員長——本多正明
●大会副委員長——田中金重
●大会企画委員長——宮沢 進
●東京事務所——水野明夫

●企画委員——
広瀬八朗 山本真嗣 大熊庸生 原 まり子
足立佳代子 佐藤勝夫 安田広務 富川 歓
村上 豊 三樹 正 渋谷重良 高尾 享
津田吉男 青木博幸 小幡良平 大坂和彦
金沢裕久

●ピアノ伴奏——秋葉三佐子
●賛助出演(琴)——正派邦楽会
総裁・中島雅楽之部
●司会——こうのおさむ

●本部——〒390 長野県松本市深志3-10-3 TEL.——松本0263(32)7171
●東京事務所——〒101 東京都千代田区神田駿河台1-6 主婦の友ビル7階 TEL.——東京03(295)0270・東京03(294)2251 内線299
●東海事務所——〒464 名古屋市中区春岡通4-15 大沢美良方 TEL.——名古屋052(751)3436

子供の運命は、親と国の手にあり

才能教育研究会会長 鈴木鎮一

くどの子ども育つ、育て方ひとつ)世界中の子供達が、0才からの教育によって、それぞれ皆自国の田国語を自由自在に話す優れた語学能力に育つてゆくその事実が気がついて、私は驚いて、早速その日から田国語の0才からの教育法の研究をはじめました。40数年前のことです。そしてやがて私は「能力の法則」を発見し、心も能力も生れつきではない、ということを実証的に知り、世界の人々に訴えつづけてきたのです。そして30年に亘り多くの同志の先輩達と共に、多くの幼児を育ててみて、今日では、子供達のその優れた大いなる力に驚かされ乍ら指導しています。すてゝおけば駄目になる苗と同じですし、0才からの教育こそすばらしいということを知りました。鈴木メソッド——田国語の教育法——は、今や世界中に大変な勢いで広がっています。アメリカでは10万人の生徒が育てられて



いるのです。今日の全国大会は全国から3000人余りの生徒が集まりましょう。そして5才6才の幼児達がバツハの協奏曲全楽章を立派に弾くことでしようが、そうした事実は、0才からの教育であり、どの子どもも育て方ひとつの実証であるのです。育て方ひとつです。心も能力も生れつきではないとわかった以上、わからぬ親が、わが子を駄目にしてしまふのを国家として、無関心であってはならぬ番です、くどの運命は親と国の手にあり)です。やがて、世界中の国々が、市町村に育児指導員を配置し、0才からの教育を親を指導し、家庭に於て親の手で、美しい心、好ましい能力のその開発を助け指導しつづけて、1人も駄目にしない0才からの育児国策のその実現を夢みて、私はこれからの半生を生きて参ります。

教育革新の見事な実証

幼児開発協会理事長 井深 大

世界で1番大きくて、1番小さな音楽会が今年も盛大に開かれます。1番大きなというのは出演者数のことで恐らく今年も3000名に近いでしょう。1番小さなというのはもちろん出演者の年齢で3才未満の子供さえいて、4才、5才の子供は数え切れないのです。しかもこの人達はただ出演するというのではなく、立派にバツハやビバルディ、モーツァルトの曲を弾きこなすのです。ずっと前に私は日本の教育の大家とジュリアード音楽院の理事の人と大論争をしたことがあります。この人達はそんな3才や4才の子供が器用にバイオリンを弾きこなしても芸術とは考えられないのではないか、といい張っていました。しかしこの人達も1度鈴木チルドレンの演奏を見て、聴いただけで、全くその意見を変えてしまいました。子供達の演奏は何べんきいても心にジーン



とくるものを感じます。これがほんとうの芸術だと私は信じます。昨年の演奏会の最後に鈴木先生の指揮に従って全員が練習をした時、無邪気な子供達が顔を真っ赤にして夢中になってバイオリンと取組み、観衆全員が涙を浮かべてこれを見守る、あの感激は一生忘れることがないでしょう。小さな子供達がバイオリンを弾く、事実はたったこれだけの事です。しかしこの事実が世界を何か違った、よい方向へ引っぱって行く様な気がします。米国ではすでに10万人近い鈴木チルドレンが生れているといわれております。音楽家をつくるだけが目的ではない、よい人間を、素直な頭のよい子供さえもつくり出す大きな働きのあることを鈴木先生は発見され、これを実証された。その姿がこの全国大会であると思います。世界中にこの才能教育運動が広がった時に始めて理想の世界が生れることを期待して1人でも多くの鈴木チルドレンが生れることを期待しています。

全国大会に思う

全国大会委員長 本多正明

全国大会の演奏は最近質、量共に著しく向上してきた。昨年ハワイで大会のビデオを見たが、ブラウン管から流れでる音はびっくりする程綺麗であった。機械をとおしたもののだけにかえてその良さがよく判った。これは鈴木先生が考案された伴奏テープが普及したおかげではないかと思う。鈴木先生が昭和21年に書かれた本に『幼児の才能教育と其の方法』という著書がある。既にこの本の中で先生は子供の才能は生まれつきでなく、環境で育つことを力説され、従順で素直な子は、我儘で利己的な子よりよく才能が育つと書いて居られる。性格も生まれつきでないとする、従順な性格をつくるのが才能を育てる大切な基礎となるのである、ヘレン・ケラー女史も同じようなことを云って居られる。よく早教育の利害得失が論じられている。私は最近脳障害児の治療を行ってかなりの



好成绩をあげている。人を人とも思わず、言葉が出ない自閉症の子供が、漢字を読み、俳句を暗誦するようになったのを、何故早教育するのかと反対する人はないだろう。過去2年全国大会指定席の利益は脳研療育会に寄付している。大会で演奏出来る子供は恵まれた子であり又親である。世界の大きな話題となっているこの大会が、恵れない人達に多少でも寄与出来ることは大変意義が深い。

第24回 全国大会プログラム

●

午後 1 時30分

●箏とバイオリンの合奏

1

春の海 ———— 宮城道雄

●セロ合奏

2

- a・キラキラ星変奏曲 ———— 鈴木鎮一
- b・アレグロ ———— 鈴木鎮一
- c・ブーレ ———— ヘンテル
- d・白鳥 ———— サン・サーンス

●箏合奏

3

六段の調べ ———— 八橋梭校 ●この2曲を同時に演奏します
 松籟譜 ———— 中島雅楽之都

●フルート合奏

4

- a・歌の翼に ———— メンデルスゾーン
- b・ブーレ ———— ヘンテル
- c・〈アルルの女〉よりメヌエット ———— ビゼー

●バイオリン合奏

5

協奏曲 イ短調 全楽章 ———— バッハ

6

アレグロ ———— フィオッコ

7

二つのバイオリンの為の協奏曲 第1楽章 ———— バッハ

8

協奏曲 イ短調 第1楽章 ———— ビバルディ

●ピアノ独奏

9

幻想即興曲 ———— ショパン

●バイオリン合奏

10

ブーレ ———— バーハ

11

ガボット ———— マルティニー

12

二人のてき弾兵 ———— シューマン

1978年卒業式

●

- 挨拶 ———— 大会委員長 本多正明
- 挨拶 ———— 会長 鈴木鎮一
- 卒業証書授与 ———— 会長 鈴木鎮一
- 祝辞 ———— 理事長 井深 大

●バイオリン合奏

13

ガボット ———— ゴセック

14

鈴木先生と一緒に ———— 鈴木先生の指名される曲を次々に演奏します

今日の日はさようなら ———— 金子詔一 全員で合奏と合唱

24th ALL JAPAN CONCERT PROGRAM

●

P.M.1:30

KOTO and VIOLIN

1

Haru no Umi ———— M.Miyagi

CELLO

2

- a・T winkle, T winkle, Little Star Variations ———— S. Suzuki
- b・Allegro ———— S. Suzuki
- c・Bourrée ———— Händel
- d・The SWan ———— Saint-Saëns

KOTO

3

Rokudan ———— K. Yatsushashi
 Shourai fu ———— U. Nakazima

FLUTE

4

- a・On Wings of Song ———— Mendelssohn
- b・Bourrée ———— Händel
- c・Minuet from "L'Arlesienne" ———— Bizet

VIOLIN

5

Concert A min. 1st, 2nd and 3rd, mvt. ———— Bach

6

Allegro ———— Flocco

7

Concert D min. for Two Violins 1st mvt. ———— Bach

8

Concert A min. 1st mvt. ———— Vivaldi

PIANO SOLO

9

Fantaisie-Impromptu ———— Chopin

VIOLIN

10

Bourrée ———— Bach

11

Gavotte ———— Martini

12

The Tow Grenadiers ———— Shumann

Graduation Ceremony

●

- Opening Greetings · Chairman of Annual Concert M. Honda
- Greetings ———— President S. Suzuki
- Presentation of Diplomas ———— President S. Suzuki
- Words of Congratulations · Chairman of E. D. A. M. Ibuka

VIOLIN

13

Gavotte ———— Gossec

14

With Mr. Suzuki



生命の息吹き!

大会企画委員長 宮沢 進

全国より集まりました才能教育の子供達が、リハーサルもなく、この会場においての一条みだれぬ見事な演奏! すばらしい生命の息吹き! この感動は、この現実にしたことのない方には、想像も出来ない教育の姿であり、成果ではないでしょうか。

私も昨秋、渡米一行の付添い指導者として10名の幼い子供達と、アメリカ、カナダをまわって参りましたが、この「スズキメソード」によって育てられた子供達の演奏は、見る人、

聴く人の心に、大きな感動と驚きを与え、各地で大変な歓迎を受けました。それは、私達指導者にとりまして、何よりのよろこびであり、誇りでした。又、それぞれの演奏地で、この広大な武道館での、全国大会の写真を見て、「何回ぐらいリハーサルをするのですか。」と云う質問を受けました。音楽を知る人々にとっては、今日の、このリハーサルなしの大音楽会は、信じられない出来事なのです。鈴木先生が、長年にわたり世の多くの人々に訴

えてこられた教育の革命、教育のあり方の成果を示すこの全国大会も、回を重ねて24回目を迎えたわけですが、才能教育法を理解し、それにたづさわる私達指導者も、共に歩く父母の方々も、この大きな教育の成果を、今では当然のこととして、わが子の姿にも、ともすれば感動の心を忘れがちになってはいないでしょうか。この大会を単なる行事としてではなく、身近かな私達自身の心をふり返る大切な場として、新鮮な喜びの中で迎え、前

向きにすすんで参りたいものです。子供達が、美しい心と高い能力を持った、よりよい人間に育つことへのねがいをこめて、私達大人も惜しみない努力と、研究を重ねて参りたいと思います。本日、御来場下さいました皆様に、心からの感謝を捧げますとともに、この子供達の明日が幸せなものであります様に、どうぞ暖かい拍手をお送り下さいます様おねがい申し上げる次第です。





●写真は1977年全国大会スナップ



ピアノ卒業式と第5回ピアノ科講師認証式

3月24日 松本・才能教育会館(第7回)卒業生170名

3月25日 名古屋・中電ホール(第1回)卒業生150名

3月26日 大阪・大阪府青少年会館(第6回)卒業生839名

3月28日 東京・サンプラザホール(第7回)卒業生1433名

卒業生総数2592名

(各科卒業内訳)初等科前期1543名 初等科648名 中等科246名 高等科115名 研究科40名。

(講師認証式)

5月21日 松本・才能教育会館

新講師31名に、鈴木会長からお免状と記念品が贈られました。

今年でピアノ科講師は、第1回51名、第2回44名、第3回25名、第4回21名、第5回31名で、全員172名に達しました。

第2回ハワイ国際研究大会

6月26日→7月5日

研究会は6日間で、後の3日間はオプション・ツアーと自由行動でした。

(会場)主会場は、ヒルトン・ハワイアン・ビレッジのコーラル・ホール・ルームで、ピアノ科とフルート科はハワイ大学で行われました。

(参加者)日本433名、アメリカ147名、オーストラリア40名、カナダ3名、合計623名となりました。

(研究会)

午前9時。ビデオ・テープによる、今年度全国大会の演奏、松本支部鎌田佐代ちゃんの3オでバイオリンを始め、7オで研究科を卒業する4年間の成長記録の映写。

10時。鈴木会長のトナリゼーション指導法の最新20種の発表。

11時。鈴木会長が子供達のグループレッスンをを行い、詳細な指導法の実際を公開。

午後1時半。毎日午後のコンサート。

2時40分。スター先生、プランソン先生、ハーマン先生外各国の先生の研究発表。

7時半。毎晩、国際的なコンサート。

閉会式における鈴木会長の挨拶

『最後に、日本製の私のひどい発音の英語は、確かに、最も悪い教育の代表的見本でありますことを、今回も全員に確認していただいたわけです。私の英語は残念ながら手おくれです。音楽教育においては、どうかこの私の英語のように育てないようお願いします』と結ばれ、満場大笑いとなりました。

第28回夏期学校 松本市

7月25日→29日 前班 参加生徒783名

7月29日→8月2日 後班 参加生徒462名

(会場)才能教育会館、松本市民会館、松南高校

(各国の参加者)アメリカ生徒28名、先生4名。カナダ生徒5名。

オーストラリア、スイス、フランス先生各1名。

(鈴木会長の活躍)

この期間の鈴木会長の行動は全く超人的です。才能教育会館での

上級生のレッスン、市民会館での1200名に及ぶ生徒達の曲目別グループレッスン、午後と夜のコンサート。これが丸8日間続き、このすべてを会長は実に適確に指導されます。

意欲が湧出し、欠点が影をひそめ、長所が現われて、子供達の演奏が親達の目前でみるみる変化し、キラキラと輝いてきます。この夏期学校が28年間も続いて、いよいよ盛んになっていく理由がここにあります。

1977年才能教育コンサート 東京・中野

9月25日(日)午後1時 サンプラザ・ホール(2300席)

(趣旨)東京では毎年3月に全国大会を武道館で催し、これに呼応した内容の秋のコンサートを考えていたことが実現し、予想以上の成功をおさめました。

(プログラム)

第1部は、ピアノ・セロ・フルート・バイオリンの独奏で、ピアノは地元の藤原由布子さんと横谷真理子さん、セロは名古屋支部の山本裕康君、フルートは松本支部の宮前文明君、バイオリンは刈谷支部の上田明子さんに出演して頂きました。夫々の楽器の魅力が見事に発揮された好演奏でした。

第2部は、モーツァルトのピアノ協奏曲「戴冠式」を、塚原哲夫先生指揮、ジュニア・フィル・オーケストラの伴奏で、東京中野支部の飯田加奈さんと鶴田麻子さんが演奏しました。オケの伴奏で弾くことは大変せいたくなことですが、今回は若い両者の呼吸があいすがすがしい演奏でした。

第3部は、ピノサレティのア・モールの全楽章、パッサのドツベル第1楽章、パッサのア・モール第1楽章、この3曲のバイオリン協奏曲を、各曲50名の生侍が出場しました。

絃楽伴奏は、90名にも及ぶ関東地区指導者の先生方で、指揮は才能教育出身の堤俊作先生でした。堤先生は桐朋学園を卒業され、現在東京シティ・フィルの常任指揮者です。

(結び)東京で行う「才能教育コンサート」の名にふさわしい、見ごたえ聴きごたえのある、多彩で内容の豊富な演奏会でした。

第13回スズキ・チルドレン訪米演奏旅行

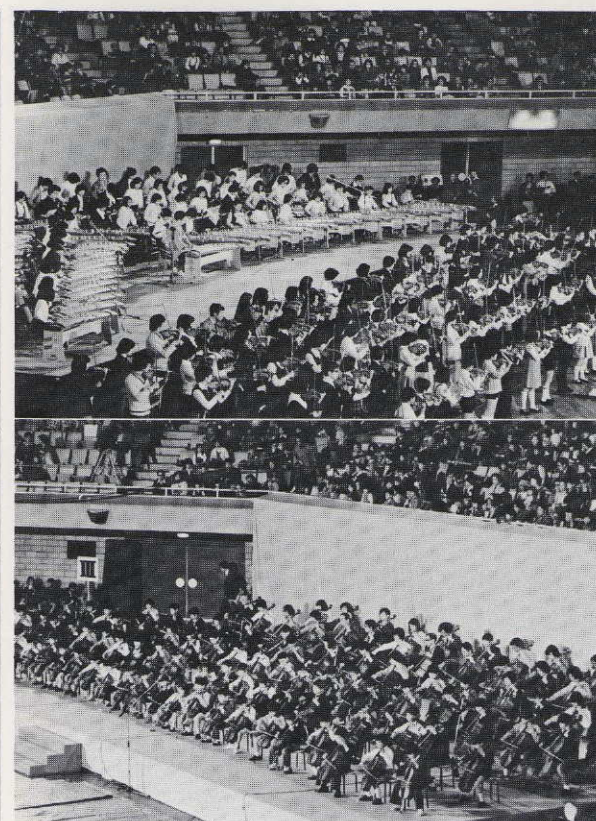
出発10月19日 帰国11月24日

(今年のメンバー)

〈団長〉本多正明理事 〈指導者〉近藤富雄、宮沢進、中島美子、川上きよ子(以上バイオリン) 鈴木静子(ピアノ) 〈生徒〉バイオリン8名(甲府) 千葉純子、松野公明(松本) 本徳理恵、樋口ゆみ(愛知) 後藤晴生、上田明子(関西) 飯屋志郎、栗田智子 バイオリン2名(東京) 平世奈穂、葛西静。

(訪問地)

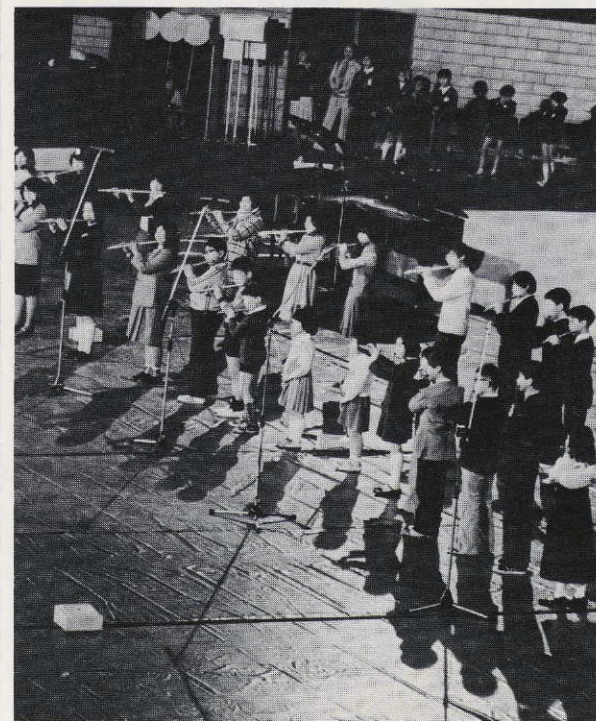
フォート・ローダーテール、ゲンスビル(以上フロリダ)、グリーンランド・ビル(ノースカロライナ)、フィラデルフィア(ペンシルバニア)、シャウィニガム、シャーブルック(以上カナダ)、ジェームス・タウン(ニューヨーク)、フェルト・リコ(アメリカ領)、オタワ(カンザス)、コロバス(オハイオ)、レキシントン(ケンタッキー)、モンロー(ルイジアナ)、バイン・ブラック、リトル・ロ



ック(以上アーカンサス)、サン・ティゴ、ストックトン(以上カリフォルニア)、ホノルル(ハワイ) 17都市

(本多団長の言葉)

「この演奏団は、単に各地を演奏して廻るのではなく、初めての土地には正しい才能教育の種を蒔き、すでに始まっている所では力強い励ましを与え、又進んでいる所には、日本の子供達と一緒に演奏できる自信を与えることにその意義があります。」



マルセル・モイーズ先生の再来日

実現の経緯

フルートの神様と今日尚広く慕われているモイーズ先生は、今年88才の御高齢。昨夏、ニューヨークに近いプラトルポに先生を訪門されたフルート科の高橋利夫先生に、「もう1度松本を訪ねて、鈴木先生や才能教育の子供たちに会いたい」ともられたことが、再訪実現のきっかけになりました。

しかし、一昨年大手術をされてその後遺症の残る先生のお身体をおもえば、今回の長旅、そして講習会と特別演奏会の大成功は、皆に深い感銘を与えました。

(講習会)今回は松本のみで開催

11月28日(月)から12月3日(土)までの6日間、毎日午後2時から8時まで、会場は才能教育会館ホール。連日、日本各地からの出席者で満員の盛況となりました。

(M・モイーズ特別演奏会)

12月9日 松本 才能教育会館

12月11日 東京 日本都市センターホール

モイーズ先生指揮のモーツァルトのセレナーテ11番K・375は、日本のトッププレイヤーが揃い、(オーボエ)井口博之、山本治勇、(クラリネット)二宮和子、武田忠善、(ホルン)田中正大、松原千千代繁、(バスーン)菅原 眸、千村雅信、という見事なメンバーでした。

ブランシュ・モイーズ夫人指揮のパッサのプランテンブルグ協奏曲の3番と4番のソロは、フルートが松本が高橋利夫・山下兼司、東京が宮本明恭・山下兼司、バイオリンが松本が大坂和彦、東京が正岡紘子の諸先生でした。

最後のクーラウのフルートの為のカルテットは、吉田雅夫先生を始め日本フルート協会の有志17名の著名な方々がずらりと並び、実に壮観でした。

尚、東京演奏会の終了後、会場のレストランでモイーズ先生88才の米寿祝賀パーティが開かれ、鈴木会長外120名が参席しました。

ウィリアム・プリムローズ先生の指導者研究会、演奏会、生徒個人レッスン

6月8日→23日 松本、大阪、東京、名古屋で研究会と個人レッスンを、ピオラ・リサイタルは、松本6月13日才能教育会館、名古屋6月21日中電ホール、東京6月23日中央会館で行っていただきました。

6月29日 ハワイの研究大会で行われたピオラ独奏会は、流石世界一の大家にふさわしい芸術の香りに溢れた、素晴らしい演奏でした。

12月2日→16日 この年2回目の御来日で、大阪・名古屋・東京・松本の順に、研究会と個人レッスンを行って頂きました。

スズキ・メソード研究所の完成

今年2月、アメリカのダビッド・スミス氏の御援助による4階建の「スズキ・メソード研究所」が、松本の才能教育会館に隣接した旧別館敷地に完成しました。

鈴木会長の夢が実現され、スズキ・メソードのメッカとして世界中から、更に多数の教育研究者を集めることになるでしょう。